

# グリーンだよりで地震被害に遭遇!

## 第2回シリーズ高層住宅における地震時の被害想定訓練

さて、マンションにお住まいのあなた!もしも、地震が起きた場合、あなたの生活はこうなるかもしれません!まずは被災時の生活を維持する上で重要な要素をイメージするために一定の条件のもとで想定をしたものです。なお、ここで想定している復旧の日時、順序などはあくまでも仮想であり、このとおりに進むものではありませんのでご了承ください。

### 【前回のあらすじ】

Aさん宅(30代の会社員・専業主婦の夫婦、中学生と小学生の4人家族、8階居住)

12月10日(木)19時、加古川市北部、山崎断層帯主部を震源地とするM7.7の地震が発生。加古川市中心部では震度6弱を観測した。地震の揺れによってライフラインがストップした。家族との連絡も取れていない。ラジオで情報を収集しながらも不安が募る。

### 地震発生1時間後のシナリオ~

12月10日(木)20時

#### 1. 帰宅困難者

やっと、連絡のなかった夫から**携帯電話**がかかってきた。会社において緊急の対応をしているとのこと。『一段落したら帰るつもりだが、歩いて帰るしかないから明日の朝、明るくなってからの方が良いかもしれないなあ。防災会制作の**帰宅支援サポーター**を持っているので、これで確認し



ながら帰宅の方法を考える』と話していた。上の子がまだ塾から帰っていないことを伝えると『こちらからも連絡を取ってみる』とのことだった。

#### 2. 非常灯・エレベーター停止

共用廊下に出てみると**非常灯**が点いていた。エレベーターまで行ってみたがやはり動いていない。昇り降りには階段を利用しなければならないようだ。



#### 3. 防災組織

マンションでは防災会が**防災マニュアル**を作っている。こんな時は家族の安全確認ができた者から**対策本部**のあたる「ふれあい公園」に集合し、活動をはじめることになっている。夫は管理組合の理事や自治会の役員ではないが、マンションに居住する者は全員が**防災会員**なのだ。夫は帰って来られないから仕方がないが、私や下の息子だけでも、お手伝いできることがあるか確認しよう。でも、上の息子からはまだ連絡が入ってこない。

#### 4. 安全確認・救急救護・情報伝達

同じ階の方が安全確認に来てくれたので、現在の状況を話した。怪我はないので良かったが、8××号室の方が打撲をしたようで**応急手当**をする必要があるらしい。その方は自分で歩くことができたので、対策本部まで行く



ことになったようだ。情報は棟ごとにまとめるために、1Fエントランスの**各棟対策支部**で集約し、対策本部に防災無線機で報告することになっているようだ。

エレベーターが動いていないので階段を使用し徒歩で報告に行くのだろう。私たちも一度、現在の状況を報告に行くことにした。1Fへ降りたとき、上の子どもが塾から戻り、**家族の安否を確認**していたところだった。とりあえずほっとした。

#### 5. トイレ

子どもがトイレに行きたいと言うので、再度自宅に戻り、**風呂の残り水**を使って流すことにした。風呂の水には限りがあるので極力節約する。**飲料水は防災井戸**からの汲み置きがあるので取りあえず安心。



#### 6. 電力復旧

マンションは23時過ぎに電気が復旧した。明かりがついて家の中のひどさを見て改めて驚いたが、でもひと安心だ。窓から外を見ると、高層ビルでは明かりが点いているのが見えるが、まだ住宅街では電気が復旧していないのか、ほとんど明かりは点いていない。テレビをつけると**ケーブルテレビ**のBAN-BANテレビでは、市内の被害状況や**生活情報**が、全国放送よりも細かく放送されている。市内はかなりひどい状態で、火災も発生しているらしい。



#### 7. 空腹・非常食

気がつけば、日付が替わりそうな時間。子ども達も空腹のようだ。ガスは復旧していない。電気調理できるホットプレートと鍋用の調理器を出してきた。これでお湯が沸かせるので、温かいお茶を飲み、冷凍庫のお肉を焼いて食べた。いつまた停電するか分からないので、腐ったり傷みやすいものから先に食べることにしたためだ。缶詰は最悪の場合に備えておいておくことにした。防災会がうるさいくらいに言っていた**粉の備蓄**をどうするのか対策本部で聞いてみよう。今日は余震が続く中、子ども達と就寝することにした。家族全員揃っていないので、やはり不安が増していく。

(原稿は東京都中央区高層住宅防災対策パンフレットを元にアレンジしています。)